

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：33801

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24820060

研究課題名(和文) 日本近代文学における翻訳と創作の連関をめぐる研究 堀辰雄を中心に

研究課題名(英文) Study on the connection between translation and creation of modern literature

研究代表者

戸塚 学 (TOTSUKA, MANABU)

常葉大学・教育学部・講師

研究者番号：70633014

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円、(間接経費) 690,000円

研究成果の概要(和文)：堀辰雄が遺した旧蔵洋書のうち、特に初期の創作活動に関係の深い書物に行われた書き込みがどのようなものを明らかにした。堀が翻訳作品として発表したものと、旧蔵書への書き込み箇所との関連性を考察し、一部については書き込みの時期について推定した。また、こうした書き込みと堀の翻訳行為の関連性、創作との関連性を考察し、堀辰雄が洋書の丹念な読み込み、書き込み、翻訳という過程を経て、創作へと結実させていく過程を解明した。

研究成果の概要(英文)：Among Hori Tatsuo's ex-libris collection, there are quite a significant number of western languages books on whose pages notes in his own hand are left. I looked into those which are related to his early writings and sorted out what their characteristics are. While estimating the dates they were made, I considered the interrelationship between these notes and Hori's translation works. What was made clear through my research was that the process of meticulous reading and translation through taking notes had a direct effect on and, in fact, culminated as his fictional writings.

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：研究活動スタート支援

キーワード：日本文学 近代文学 翻訳 モダニズム 堀辰雄 文体 ラディゲ コクター

1. 研究開始当初の背景

明治大正期にリアリズムを方法的基盤とする制度を確立した近代文学は、昭和前期に西洋二十世紀文学の流入、日本古典の再発見という二つのインパクトを通し、新しい表現システムを形成していく。文学者の翻訳という行為に注目することで、従来は全く別の動きとして捉えられてきたこの二つのインパクトを、統一した視点から把握できる。昭和文学者の翻訳行為の実相を、その創作との有機的連関において解明することは、大正期の新感覚派による「国語との不逞極まる血戦」(横光利一)がどのように引き継がれ、現在に至る文学言語の方向性を確立したかを明らかにする、すぐれて今日的な意義を持つ。

こうした視点から、本研究では堀辰雄(1904年(明治37年)-1953年(昭和28年))の文学に注目した。昭和初年代~十年代に活躍した堀は、自身の翻訳行為を媒介に、同時代の世界文学と日本の王朝文学の双方から影響を汲み取った。フランスの作家アポリネール、コクトー、プルースト、ドイツのリルケらの作品を翻訳し、そこで創出した文体で作品を書いた。また日本の古典作品を翻訳するように作品の記述に溶け込ませるという形で、一連の王朝小説を著した。堀辰雄の作品を翻訳という視点から研究することで、西洋文学と日本古典が日本のモダニズム運動に与えた影響を総合的に明らかにできると考えた。

これまで、比較文学、近代文学研究は各々個別に、堀が先行文学から受け取った富を明らかにしてきた。比較文学では、西川正也「翻訳者・堀口大学の功罪」(『比較文学研究』平成2年10月)や西村靖敬「堀辰雄の翻訳と創作」(『千葉大学人文研究 人文学部紀要』平成16年3月)が堀のコクトー翻訳を論じ、近代文学研究では、大石紗都子「堀辰雄『曠野』と“古典回帰”」(『国語と国文学』平成23年4月)など、堀の王朝小説の研究が活発化しつつある。だが、研究分野の細分化のため、こうした個別の論点を総合する視野が提示されてこなかった。

そこで、本研究では以下のような目的を設定した。

2. 研究の目的

日本近代文学研究は、比較文学研究における翻訳論の蓄積や、近年の注目分野である翻訳学(translation studies)の理論的な成果を導入することにこれまではあまり積極的ではなかった。逆に、比較文学研究は、個別の作家の作品への影響論を詳細に行ってきたが、これを作家論や文学史に有機的に連関させてこなかった。だが、今後はこうした研究分野の間の溝を埋めることで、お互いの研究方法の短所を補完し、長所を互いに取り入れていく必要がある。堀辰雄に視座を置き、日本

近代文学研究の側から昭和作家の翻訳を捉え直すことで、翻訳という視点から両者の研究方法を統合することを目指す。

堀辰雄による書き込みを一次資料として公開することで、作家の翻訳行為や創作営為の源泉として、堀による旧蔵書の書き込みが参照されることを期待する。具体的には、以下の二点を目的とする。

1. 日本モダニズムの興隆期である昭和前期の文学・文化状況について、翻訳と創作を同時並行して行った堀辰雄の文学営為を視点に、西欧語(フランス語・ドイツ語)の翻訳とその創作化を通し、文学において日本語の新しい可能性がどのように開拓されたかを明らかにする。

2. 西洋文学と日本古典を同時に受容した堀辰雄の文学の独自性を、日本古典の翻訳という観点から検討し、昭和十年代における日本古典の再発見の意味を、日本モダニズム運動の発展的展開として位置づける。

3. 研究の方法

ラディゲの心理小説『肉体の悪魔』及び詩集『燃ゆる頬』の堀旧蔵本には、堀による欄外の線引きや書き込み、紙の挟み込みや試訳の書き入れが見られる。これらの調査を元に、上記二作の一節を鏤めるように作中に引用した初期代表作『聖家族』を論じる。フランス語における、抽象名詞を主語に、人物を目的語に置いて関係の網の目として恋愛心理を裁断していく文体が、堀の翻訳行為を通して試行錯誤の中で作られていく過程を明らかにする。

堀辰雄の文壇処女作「不器用な天使」は、コクトー作品の一節が部分的に引用され、堀はこれを日本語に置換して小説の言葉を創り出している。だが、コクトー関係書物は数が多い上に書き込み箇所も多く、堀がどの原書をどのように読み込み、どのように作品に生かされているかは明らかにされてこなかった。そこで、コクトー関係書物を一括して調査し、堀がそれぞれの書物を入手した時期や書き込み時期の推定、書き込みの内容を調査し、これを堀辰雄によるテキスト生成の一環として公開する。

具体的には、以下のような方法をとることにした。

(1) 神奈川近代文学館所蔵堀旧蔵洋書書き込みの調査を通し、フランス文学・ドイツ文学関係書物のうち、堀の創作と密接な関係にある書物への書き込み箇所を明らかにする。また、堀辰雄記念文学館所蔵和書のうち、堀による大山定一訳『マルテの手記』への書き込み、『伊勢物語』、『今昔物語集』、『更級日記』、『英訳更級日記』等の書き込みを調査し、堀がどのように原書を読み込み、またそれを

創作に生かしたかを調査する。

(2)以上の調査を踏まえ、堀辰雄の小説『風立ちぬ』、『聖家族』、王朝小説『嫉捨』、『曠野』を翻訳という視点から論じる。フランス文学・ドイツ文学・日本古典の言葉を自作に取り入れていく過程を作品内翻訳という視点から一括して捉え、堀辰雄の創作と翻訳行為の交錯点を浮かび上がらせる。

4. 研究成果

上記研究の方法のうち、(1)のフランス文学関係の書物の調査について、堀による書き込みが多いために現在書き込みの調査はフランス文学関係のものを中心に調査を継続中である。それに伴い、(2)の論文執筆も、フランス文学関係のものに焦点を絞った。

ラディゲ関係書物の書き込み調査

まず、ラディゲに関係する書物への書き込みを「堀辰雄旧蔵洋書の調査(二) ラディゲ」(『奏』24)にまとめた。その内容は、堀旧蔵ラディゲ関連書物五冊の書誌及び書き込みを中心とする情報を明らかにしたものである。そのうち『燃える頬』には、全体にわたって読まれた形跡があり、堀が目にしたらしい箇所には様々な種類の色鉛筆で下線が付されていることを明らかにした。また、書き込みや折り込みと堀の訳出箇所に相関性がある。

序文のうち、書き込みがある II. 16-19 (Mes poèmes sont l'expression naturelle d'un mélange de pudeur, de cachotterie propre à l'âge auquel ils ont été écrits.)の箇所は、堀のエッセイ「レエモン・ラジゲ」(前掲)において、「僕の詩は、それらが書かれた年齢特有の羞恥と秘密との混合の自然な表現である」と翻訳・引用されている。

また巻末目次のうち、堀が訳出した「花或は星の言葉」、「転居と田舎暮しと」、「ヴィナスの墓」の三篇のみ、鉛筆で印を付した上に、赤鉛筆で下線が引かれている。さらに前二者については、本文のページ上部の角も斜めに折られている。

以上のことから、昭和二年から五年にかけて、堀がラディゲを読み、その詩を翻訳したりエッセイを書いたりした時期に読んでいた原本ではないかと推測した。

『ドルジェル伯爵の舞踏会』については時期から見て「聖家族」執筆当時に参照された原本が、旧蔵書以外に存在することを推定した。また、『肉体の悪魔』にはかなり初歩的な単語を含めて単語の意味が書き込まれていることを明らかにした。

以上のように、『燃ゆる頬』、『肉体の悪魔』の二冊が、堀がラディゲに傾倒していた時期に読んだ原本と推定した。

なお、この成果をもとに日本近代文学会春

季大会で口頭発表「堀辰雄「聖家族」論 ラディゲ翻訳を視点に」(於聖心女子大学)として報告を行った。この点について2014年度の研究助成若手研究Bの報告書で改めて詳細を報告する。

コクトー関係書物の書き込み調査

また、コクトー関係書物の書き込み調査を行い、「堀辰雄旧蔵洋書の調査(五)コクトー」(『奏』28)、「堀辰雄旧蔵洋書の調査(四)コクトー」(『奏』27)、「堀辰雄旧蔵洋書の調査(三)コクトー」(『奏』25)にまとめた。コクトー関連書物のうち十三冊の調査を終え、書き込み箇所とその内容を明らかにした。

このうち、『白紙』では、第一部の『世俗な神秘』にはほぼ書き込みがなく、第二部の『暗殺として考えられた美術』のほぼ全篇にわたり、固有名詞には赤鉛筆で下線、目に留まったらしい一節に緑鉛筆・黄鉛筆で下線ないし傍線を付していることを明らかにした。そのことから、「詩と詩論」昭和四年三月号に発表された部分訳「俗な神秘」は1928年刊行の Editions des Quatre-Chemins 版 Le Mystère laïc (Giorgio de Chirico) に拠ったと推定し、しかし『白書』などによって、堀が集中的に翻訳を行った時期以後も、未読のコクトーのエッセイを見つけては読み進めていたことを指摘した。

また『諸君ご静粛に!』は、書き込み箇所が極めて多く、冒頭にコクトーの著作の発行年が手書きで書き込まれていることから、堀が本書を手引きにコクトーの読書を進めたのではないかと推定した。

『怖るべき子供たち』は、堀初期の読書に特徴的な単語の訳の書き込みが全篇にわたることを明らかにした。本書は、二十四ページ以下ほぼ末尾に至るまで単語の意味が書き込まれている。堀が単語の意味を確かめつつ、本書を通読したことを推定した。特に、「平面球(世界地図)」との書き込みがあるのは、堀の小説「手のつけられない子供」の於菟の部屋に描かれる物の中にある「地球儀」の原拠ではないかと推定した。

レクイエム翻訳と『風立ちぬ』の関係

堀辰雄の代表作『風立ちぬ』を、その最終章「死のかげの谷」の「鎮魂歌」の翻訳の問題に視点を置いて読み解き論文として発表した。堀辰雄が英訳「レクイエム」の末尾に傍線を引いていることを踏まえつつ、「死のかげの谷」における「鎮魂歌」の訳文の特徴を分析し、作品の解釈に結びつけた。

堀辰雄旧蔵「レクイエム」末尾の四行に書き込みが見られるが、堀はこの「レクイエム」の冒頭及び末尾を幾度か翻訳しその度に改訳して活字化していることを指摘した。エッ

セイ内で引かれた翻訳と、『風立ちぬ』末尾に引かれたレクイエムの訳文とは文体が異なる。『風立ちぬ』末尾に引かれた「レクイエム」は、二人称の呼びかけ「お前」が作中の「私」が節子に語りかける人称と一致する。また、詩篇末尾四行の訳は、「私」が節子に何かを依頼し要望する時の語りかけの口調と一致するように訳されている。そのことから、堀のレクイエム翻訳が作中の物語内容と合致する形になっていることを論じた。

堀の書き込み調査をもとに、作品の中における翻訳行為に注目し、作品の解釈と結びつける方法の一つを示した。堀辰雄が生涯にわたり翻訳を続けただけでなく、自らの作品の中でしばしば翻訳を行った作家であり、このような作家の作品を読み解くに当たっては、作品の内部における翻訳行為に注目し、原語から日本語への変換過程を分析することで、新たな作品読解の可能性が開かれることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4 件)

「堀辰雄旧蔵洋書の調査(四) コクトー」
戸塚学 (「奏」) (27) 95-118 2013年12月

「堀辰雄『風立ちぬ』論 「死のかげの谷」
におけるリルケ翻訳」戸塚学 (「文学」)
14(5) 45-56 2013年9月

「堀辰雄旧蔵洋書の調査(三) コクトー」
戸塚学 (「奏」) (25) 72-106 2012年12月

「堀辰雄旧蔵洋書の調査(二) ラディゲ」
戸塚学 (「奏」) (24) 84-99 2012年6月

6. 研究組織

(1)研究代表者 戸塚学 (TOTSUKA MANABU)

研究者番号：70633014